

白鳥公園 管理運営方針

パークマネジメントプラン

◆公園の特性を生かした公園経営の推進◆

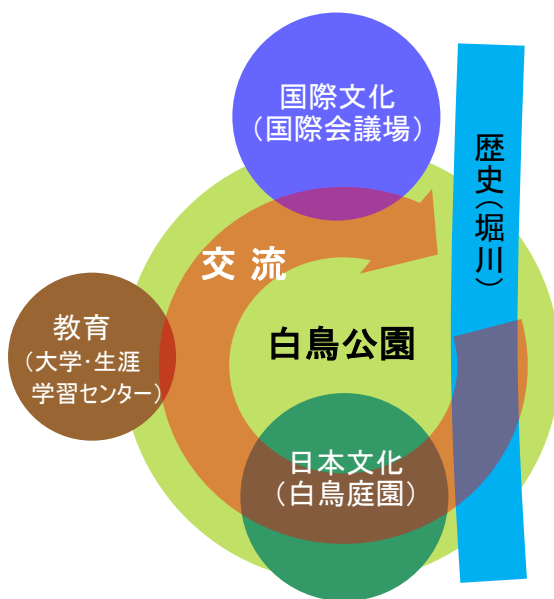
平成 26 年 8 月

名古屋市緑政土木局

白鳥公園のめざす公園像

地域に伝わる水の物語を軸に、歴史と文化の交流が生まれる公園

- ・ 歴史と文化の蓄積された土壌を持つ熱田において、歴史を生かした「文化の薫り高いまちづくり」の側面を担う公園。
- ・ 国際会議場が担っている交流の場という特性を活かし、来訪者の満足度が高い公園。



目次

基本事項	1
1.公園の概要	
1-1.白鳥公園の概要	2
(1)概要	2
(2)行政計画上の位置づけおよび指定等	4
1-2.沿革	9
1-3.立地環境	10
(1)自然状況	10
(2)周辺状況	10
1-4.整備時の方針および内容	15
(1)整備当初の基本方針	15
1-5.施設状況	16
(1)施設概要	16
(2)利用時間および料金	20
(3)景観	21
1-6.利用状況	22
(1)利用実績	22
(2)利用者の意見	23
(3)利用状況	24
(4)利用・運営上の課題	25
(5)協働	26
1-7.公園の基本的な性格・役割	27
(1)特長の分析	27
(2)公園経営の現況評価	28
2.めざすべき姿と取り組みの方針	
2-1.公園がめざすべき姿	29
(1)めざす公園像	29
(2)白鳥公園のイメージ	29
2-2.取り組みの方針	30
(1)公園経営の目標設定	30
(2)ゾーン別特性	31
(3)維持管理の方針	32
(4)景観形成の方針	32
(5)運営管理の方針	32
(6)連携・協働の方針	33
(7)改修・再整備の方針	33
(8)災害対応の方針	33

公園管理運営方針 基本事項

公園管理運営方針（パークマネジメントプラン）は、平成 24 年 6 月に公表された「公園経営基本方針」及び、平成 25 年 7 月に公表された「公園経営事業展開プラン」に基づき、今後 10 年程度を計画期間として公園の管理運営の方針等を定めるものです。

この方針では、白鳥公園の性格、役割、立地条件や公園としてのあゆみ、利用者の動向などを踏まえて、めざす公園像を設定し、その実現にあたっての取り組みの方針を定めました。

管理者、利用者、事業者等は、このプランで示す各方針に即して、本公園における管理運営や利活用の促進を、それぞれの立場で行っていくものとします。

なお、本方針については、マネジメントサイクルで行う評価の結果や、周辺の都市基盤整備状況、技術動向、財政見通しなど社会経済情勢の変化等により対応が必要となった場合には、適宜見直しを行っていくものとします。

「名古屋市の公園経営」とは…

従来の行政主導による維持管理中心の公園管理から脱却し、利用者志向、規制緩和等による市民・事業者の参画の拡大、多様な資金調達とサービスへの還元、経営改善手法の導入など、公園の利活用の発想により公園の経営資源を最大限に活用していく新たな管理運営の考え方です。

名古屋市においては、市民ニーズを考慮した公園経営を第一とし、公園を「市民の資産」としてとらえ、多くの人々の関わりの中で、市民全体が公園経営の成果を享受できるように「管理する資産」から「経営する資産」へと公園の管理運営のあり方を大きく変革していくものです。



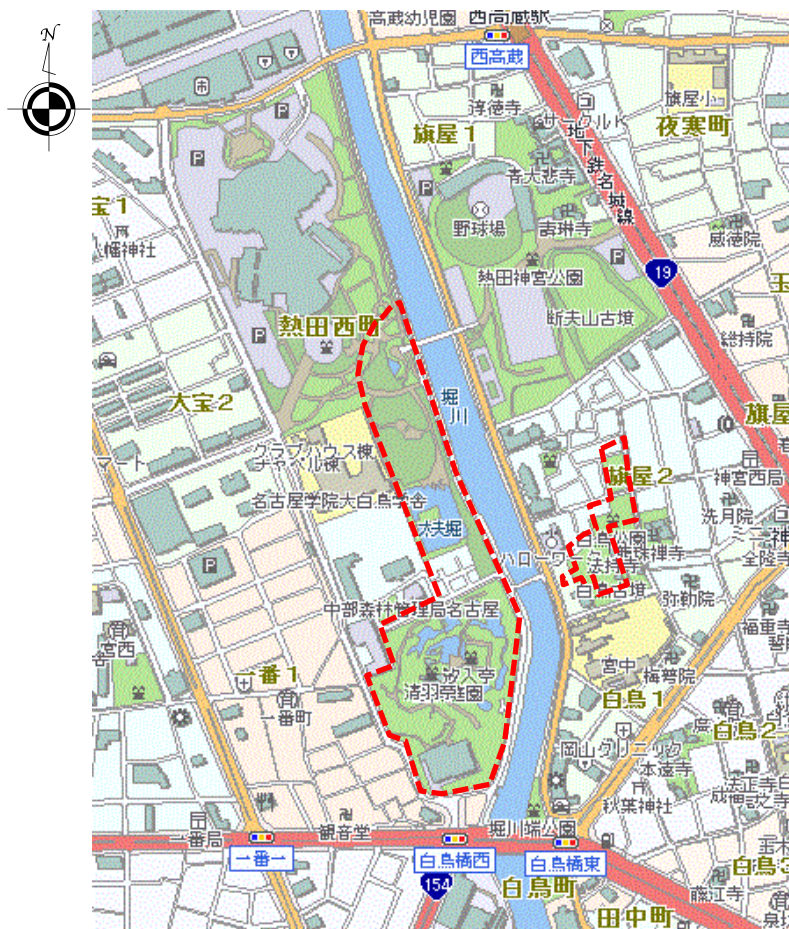
■市民・事業者・行政の Win-Win の関係

1. 公園の概要

1-1. 白鳥公園の概要

(1) 概要

開園年度	昭和 49 年
都市公園法による設置	昭和 49 年 6 月 25 日
公園面積	8.22ha
所在地	名古屋市熱田区旗屋二丁目、白鳥一丁目、熱田西町地内
公園種別	地区公園
都市計画決定	年度 昭和 22 年 5 月 6 日 番号 2・2・801 号（街区公園） 面積 0.92ha 年度 昭和 56 年 8 月 17 日 番号 4・4・26 号（地区公園） 面積 7.4ha



白鳥公園平面図

【位置】

白鳥公園は、名古屋国際会議場の南、堀川の白鳥橋～旗屋橋の間で川沿いに位置する。



位置図

【交通】

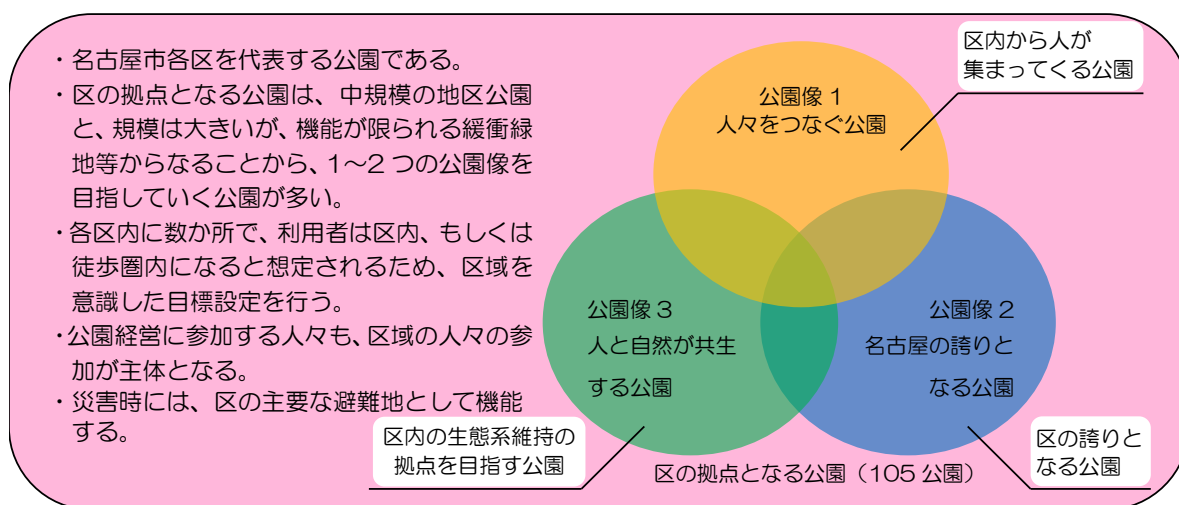
地下鉄名城線 「西高蔵」「日比野」「神宮西」駅

(2) 行政計画上の位置づけおよび指定等

■ 区の拠点となる公園

事業展開プランの中で、公園の面積規模や公園利用者の広がり considering 3つに分類された公園体系のうち、「区の拠点となる公園」として位置づけられている。「区の拠点となる公園」とは、各区でおおよそ数か所ある地区公園及び河川敷緑地などを指している。

【区の拠点となる公園】



※名古屋市公園経営事業展開プラン（H25.7）

■広域防災拠点・広域避難場所

【広域防災拠点】

国際会議場および白鳥公園一体は、名古屋市地域防災計画に定められた広域防災拠点の緊急物資集配拠点に指定されている。緊急物資集配拠点とは、大量の調達・救済物資の受け入れ場所で、荷物の積み替えを行い避難所へ供給する場所である。

【広域避難場所】

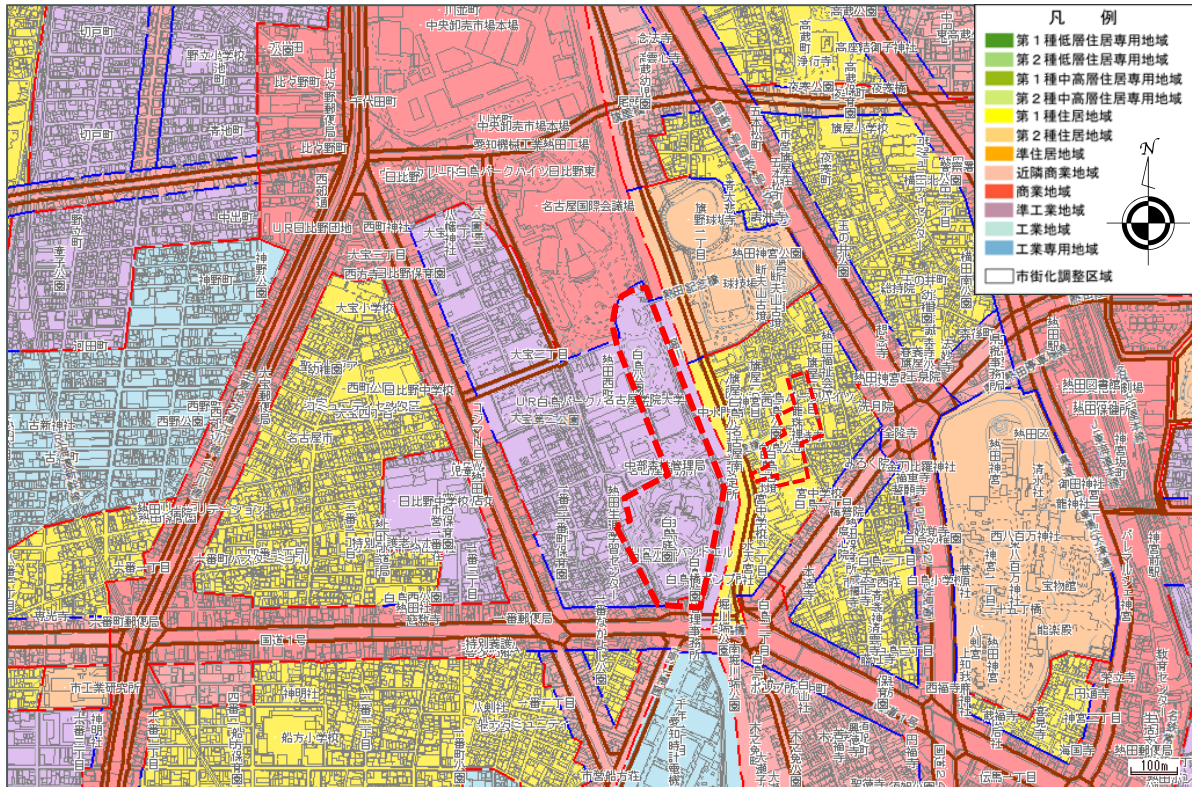
名古屋市地域防災計画の中で、白鳥公園は広域避難場所として指定されている。広域避難場所とは、主として地震火災が延焼拡大した場合に、周辺地域からの避難者を収容し、避難者の生命を保護するための場所である。



避難所マップ

■用途地域

白鳥公園は準工業地域に位置し、東西は第1種住居地域、北は商業地域、南は工業地域となっている。



用途地域図

■河川区域・河川保全区域

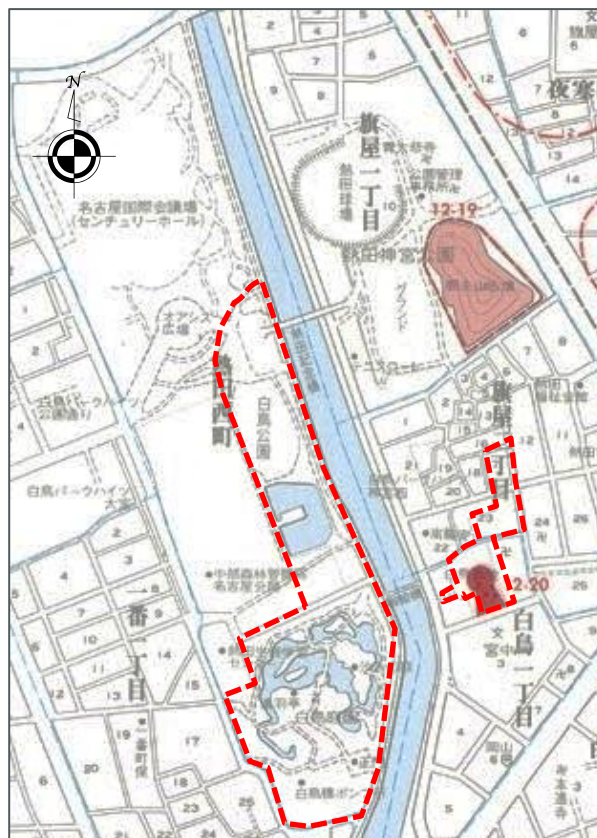
白鳥公園の一部は、堀川の河川保全区域内に位置している。



河川区域・河川保全区域

■史跡

公園内には右図のように
遺跡が指定されている。



昭和区遺跡分布図

遺跡番号	遺跡名称	出土遺物／時代
12-20	白鳥古墳	前方部は道路建設の際に削られ、須恵器の出土記録がある／古墳

1-2.沿革

昭和 53 年（1978 年）8 月	名古屋営林局白鳥貯木場の縮小計画による跡地利用計画が始まる。地域の避難場所としての機能を持たせ、「緑豊かな水郷公園」をテーマに基本計画が策定された。
昭和 55 年（1980 年）6 月 5 日	名古屋営林局から白鳥貯木場の一部を買収
昭和 56 年（1981 年）8 月 17 日	都市計画公園（地区公園）として決定 計画面積の約 5ha の土地については、水面のある公園を基本テーマとして国有財産を買収し、一部を埋め立てて日本庭園として整備することを決定した。
昭和 56 年（1981 年）12 月	ごみの搬入が始まる。 公園築造に先立ち、名古屋市環境事業局が庭園中央部約 2ha に不燃ゴミ約 10 万 m ³ を埋めることになり、ごみの搬入は昭和 58 年 7 月に完了した。なお、この付近は第二次世界大戦中、多くの爆弾が投下された場所で、埋め立てに先立ち不発弾の探査と掘削が慎重に行われた。
昭和 58 年（1983 年）8 月	白鳥公園築造工事開始 庭園は、木曽川の源流である御嶽山に見立てた山を築くため、また、ごみの山の圧密沈下を促進するため、さらに約 7 万 m ³ の盛土工事を行って高さ 13mの築山を築いた。 外周石積、植栽工事を始め、流れ、岩組などが急ピッチで進められた。 この事業は、昭和 63 年度完成をめざして進められ、最終的に平成 2 年まで 20 億円の整備費が投入された。
平成元年（1989 年）	茶室二席を併設した数寄屋建築の清羽亭が完成したところで、世界デザイン博の会場に編入され、多くの来観者に親しまれた。
平成 3 年（1991 年）4 月 14 日	残工事を終え、白鳥庭園を開園
平成 18 年（2006 年）	白鳥庭園の指定管理者制度導入

1-3.立地環境

(1)自然状況

【地形】

古くは、(1651 年以前)堀川が「熱田台地」西縁部を切り込んで、伊勢湾に流れ込む河口にできた三角州の頂点に位置しており、この三角州の頂置層※が堆積したと考えられる。

※頂置層(ちょうちそう)・・・三角州面を形成している前置層の上に、緩傾斜で乗る堆積物

【植生】

名古屋市を占める平坦部は、古くから住宅地、農地化が進み、社寺林や旧蹟跡等には自然植生を残していたが、この貴重な緑も戦災や伊勢湾台風によってその大部分を壊滅させられた。熱田区では、熱田神宮、高座結御子神社のクスノキ林、ムクノキ、ケヤキ、断夫山古墳のクロガネモチ林等社寺林が比較的大面積で残っている。

(2)周辺状況

白鳥公園は、名古屋国際会議場の南、堀川の白鳥橋～旗屋橋の間で川沿いに位置し、名古屋の歴史を物語る史跡が点在する白鳥地区にある。



周辺状況図



航空写真

【堀川】

堀川は、名古屋市築城と同時に開削され、以来 400 年間にわたって名古屋の歴史とともに歩み、人々の暮らしやまちづくりに密接に関わりを持ってきた。江戸から明治、大正、昭和初期にかけては、物資輸送の大動脈として名古屋市民の生活を支え、花見や水遊びなどを楽しむ憩いの場として人々の生活の一部となってきた。



※東岸には木材や薪が高く積まれ、
西岸には蔵が建ち並ぶ堀川五条橋付近（尾張名所図会）



桜橋周辺（昭和 10 年頃）
※提供：名古屋都市センター（所蔵）

白鳥公園の太夫堀は、名古屋城築城時に貯木場として掘られたものであり、木曽地域が尾張藩領となった際、白鳥材木役所がおかれた。寛永年間（1624～43 年）には、堀川左岸の法持寺西側に木曽材を揚げて売る材木場が設けられ、これに伴い堀川沿いに多くの材木屋が集中することとなった。

名古屋市では、平成元年に「堀川総合整備構想」を策定し、堀川の総合的な整備の理念と実現への基本的な考えを示し、白鳥、納屋橋、黒川の3地区において先行的に整備を進めてきた。

白鳥公園が位置する白鳥地区では、「史跡や公園が点在しており、また名古屋国際会議場を核とした「国際交流」の一面も兼ね備えている地域の特色を活かしつつ、公園整備など他の事業と連携しながら水辺空間の整備を進める」として、河川沿いに連続したプロムナードが整備され、散策ができるようになっている。

平成24年10月に策定された「堀川まちづくり構想」では、熱田エリアとして拠点エリアの将来イメージが示されている。

【熱田エリアの特徴】

- ・ 熱田神宮や白鳥古墳に代表される悠久の歴史が残る。
- ・ 宮の宿、熱田湊など尾張名古屋・東海道の歴史が残る。
- ・ 交流拠点となる国際会議場が立地する。

【ビジョン】 堀川誕生の起点、東海道宮の宿、熱田湊の歴史を伝える。

【主なまちづくりの取り組み】

活動 : 堀川まつり、熱田区・名古屋学院大学との協働まちづくり

堀川および堀川周辺の活動団体：熱田区まちづくり協議会

堀川にぎわいまちづくり専門員会

あったか人まちづくり専門員会

【将来イメージ】

- ・ 熱田湊や宮の宿等の歴史資源を活かした堀川まちづくりの機運を高める。
- ・ 国際会議場や熱田神宮などの集客施設との連携を深める



【名古屋国際会議場】（市民経済局 指定管理）

平成元年（1989 年）に名古屋市政 100 周年を記念して開催された世界デザイン博覧会で建設・設置された白鳥センチュリープラザを再利用して平成 2 年（1990 年）に設置された。設計は、白鳥公園にちなんで、地上からは白鳥が水に浮いている姿、空中からは、白鳥が翼を広げている姿がイメージされている。客席数 3,000 席を備えるセンチュリーホールのほかイベントホール、国際会議場、3 つレストランを備える名古屋の中核施設である。

【名古屋学院大学】

白鳥公園西側に、名古屋学院大学白鳥学舎が隣接している。まちづくりや商店街活性化を目的として実施している「みつばちプロジェクト」や、大学が自治体と連携して全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める「地（知）の拠点整備事業」にも取り組んでいる。

【中部森林管理局名古屋事務所】

森林管理局は、国有林の管理を主業務としているが、名古屋事務所は直接管理する森林は受け持っておらず、中部の木材消費拠点である名古屋都市圏の木材流通の情報収集を行っている。敷地内には貯木場として利用していた時代に森の神を祀った「郷土の森」が残されており、地域の緑の一角を担っている。

【熱田生涯学習センター】（教育委員会）

地域の自然環境や産業等の講座を実施し、白鳥公園を活動フィールドとして利用している。公園内外の施設と連携した様々な講座を持ち、公園に関連する知識の共有や情報発信の場となる施設である。

1-4. 整備時の方針および内容

(1) 整備当初の基本方針

《昭和 58 年 3 月 白鳥公園基本設計(名古屋市農政緑地局)》

白鳥公園は、1-2. 沿革の項で示したとおり、段階的に整備されており、公園全体としての基本構想や基本計画等の当時の資料がなく、当初の整備テーマやコンセプトは不明である。下記の基本設計は、日本庭園部分に関するものである。

1) 整備テーマ

◆テーマ「緑豊かな水郷公園」(昭和 53 年基本計画)

計画面積の約 5ha の土地に、水面のある公園を中心とし、一部を埋め立てて日本庭園として整備する。

名古屋市基本計画(昭和 55 年公表)では、「伝統的な文化を正しく継承、発展させ、新しい地域の文化を育てる文化都市の建設」が掲げられており、熱田神宮や断夫山古墳、七里の渡しなど歴史的遺産の豊富なこの地域に、名古屋の歴史、文化の発祥の地である熱田にふさわしい昭和の名園を目指した本格的な日本庭園(白鳥庭園)を築造することになった。

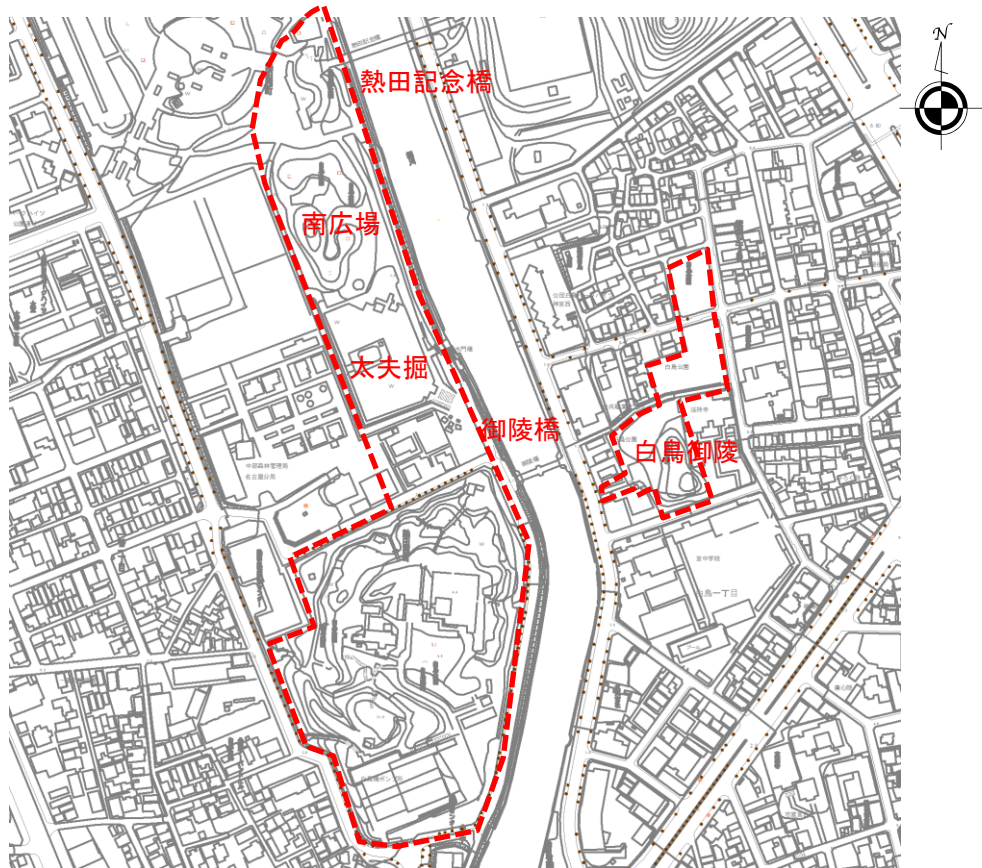
◆日本庭園の作庭テーマ

濃尾平野を作り出した母なる川、木曽川を縮景し、水郷公園にふさわしい水のストーリーを演出する。木曽川が、源流(御嶽山)から伊勢湾へ流れる変化に富んだ景観を象徴的に庭園の中に写し、豊富で清らかな水をもつ技法はもとより、現代人の感覚を取り入れた新たな手法として、水景施設が作りだす汐の満ち引きを利用して、景観の時間的変化を楽しむ「汐入りの庭」を採用する。

1-5.施設状況

(1)施設概要

■白鳥公園



白鳥公園平面図

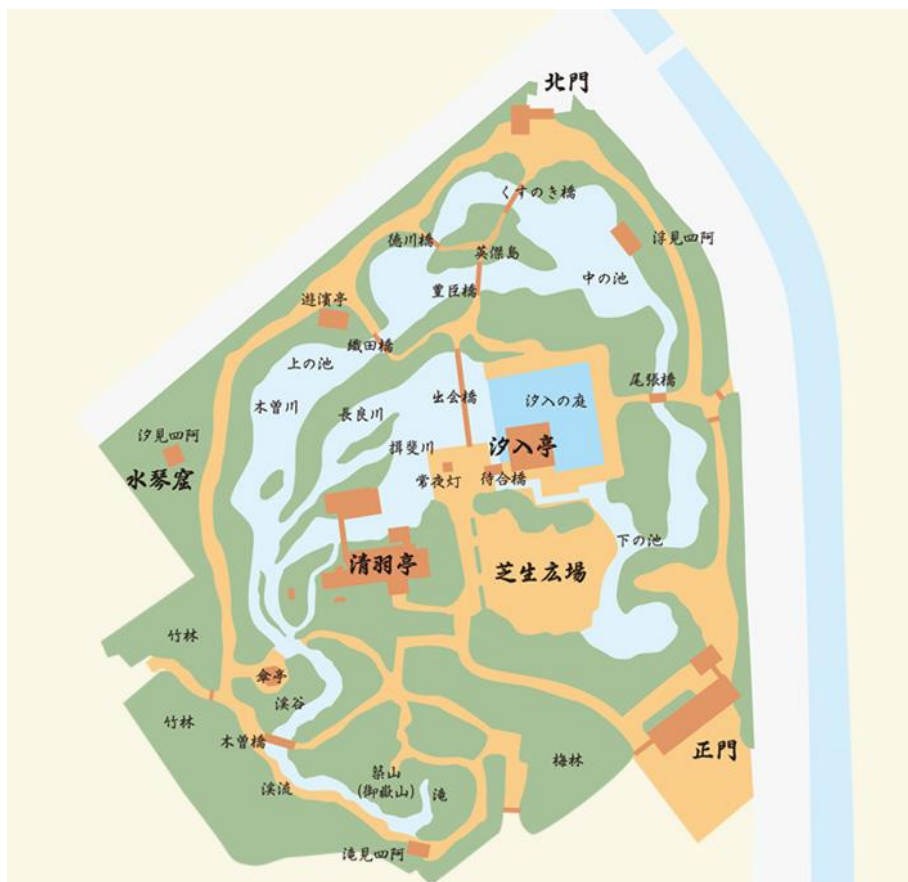
「南広場」、「白鳥庭園」、旗屋町の「街区公園」、白鳥町にある古墳のある公園「白鳥御陵」で構成されている、緑豊かな大きな公園。

南広場では大型遊具が6つあり、その1つの展望台では、登ったりくぐったりして遊べる。中央付近にはオアシス広場が置かれて、「創造の柱」が設置されている。南端にはかつての貯木場の痕跡を残す太夫堀がある。

堀川を挟んだ対岸にある県営熱田神宮公園とは熱田記念橋（人道橋）で繋がれており、熱田球場などと連絡している。さらに、南側には御陵橋（人道橋）があり、下記の旗屋町2丁目の街区公園（白鳥公園・白鳥町古墳公園）などにも行けるようになっている。

公園の南に上下水道局の白鳥ポンプ場があり、その屋上を下水道施設と公園施設とが相互に効用を兼ねる兼用工作物公園になっている。この部分には、遊具・広場を設けられている。

■白鳥庭園



白鳥庭園平面図

白鳥庭園は、文化の香り高いまちづくりの一環として昭和 58 年から整備が進められ、敷地面積約 3.7ha と市内随一の規模を誇る日本庭園として平成 3 年 4 月 14 日に全面開園したものである。

当園は、池泉廻遊式庭園で、名古屋を中心に中部地方の地形をモチーフにしており、庭園の西南端にある小高い築山を「御嶽山」、そこから流れる川を「木曽川」、川の水が注ぎ込む池を「伊勢湾」に見立て、“水のストーリー”をつくり出している。

園内には、本格的な数寄屋建築の庭園本館「清羽亭」があり、茶会などに利用されている。また、核となる施設として、水景施設が作りだす汐の満ち干きにより刻々と変化する水景を楽しむ「汐入の庭」があり、この庭を眺め、抹茶、コーヒーなどを飲みながら休憩できる喫茶・休憩所「汐入亭」がある。

平成 5 年には、都市景観大賞（建設大臣賞）である「都市景観 100 選」（平成 3 年度から平成 12 年度まで）と併せて設けられた財団法人都市づくりパブリックデザインセンター会長賞（景観形成事例部門（地区レベル））を「白鳥庭園地区」として受賞した。

【施設概要】

敷地面積	約 37,000 m ²
流れ、池面積	約 8,000 m ²
清羽亭床面積	314.50 m ²
汐入亭（休憩所）建築面積	129.96 m ²
管理棟（正門）建築面積	153.98 m ²
北門建築面積	36.74 m ²
休憩施設	あずまや 5 棟（滝見あずまや、傘亭、汐見あずまや、遊濱亭、浮見あずまや）
木橋	5 箇所
土橋	3 箇所
駐車場	（正門前）大型 1 台、普通 45 台、身障者 2 台（供用時間 8：45～17：00） （北側）普通車 30 台

1) 庭園本館

日本庭園の本館「清羽亭」は、庭園のほぼ中央、流れのほとりに位置し、自然素材を生かして、京都の数寄屋大工と尾張大工の親密な協力によって造り上げた本格的な数寄屋建築の建物である。白鳥の地名に因んで舞い降りた鳥の姿にたとえ清羽亭と命名された。概観は白鳥の舞い降りる姿をイメージしたもので、庭園と建物が美しい調和を見せている。

建物は、約 80 坪、母屋と二棟の茶室と立礼席棟からなっている。

茶会のほか、華道、歌会、句会、管弦楽などの催しができる施設として広く市民に利用されている。

2) 汐入の庭

白鳥庭園には伝統的な日本庭園の中に現代的な感覚を取り入れた斬新なデザインの「汐入の庭」がある。

汐入の庭は、汐の満ち干きによって移り変わる景色を楽しむ庭で、静かに満ち干きを繰り返して変化する風景を創り出す「水」、打ち寄せる波しぶきを表す「噴水」、打ち寄せた汐が岩場のくぼみを伝わって砂浜へ引いていく様子を表す「水」の三つの表情がある。

水面のチタンパイプは荒波に耐えて残った岩盤を象徴し、このチタンパイプを境として水底は荒々しい岩場と軟らかな砂地に分かれている。

汐入の庭は、開園した年の平成 3 年度に名古屋市都市景観賞を受賞した。池に流入・流出する水の量を自動制御し、汐の満ち干きの表現によって変化のある景色を創り出すもので、平成 3 年 3 月に完成した。庭園の景観は、源流から大海まで・熱田の開拓の歴史・現代性の表現といったテーマを基に、自然景観・歴史景観・現代の景観という三つの柱で構成されており、汐入の庭は、芝生広場とともに、三つ目の現代の景観に分類され、この地が歴史的には海岸線に面し、汐の干満が見られたという風景を、現代の感性で組成しよう

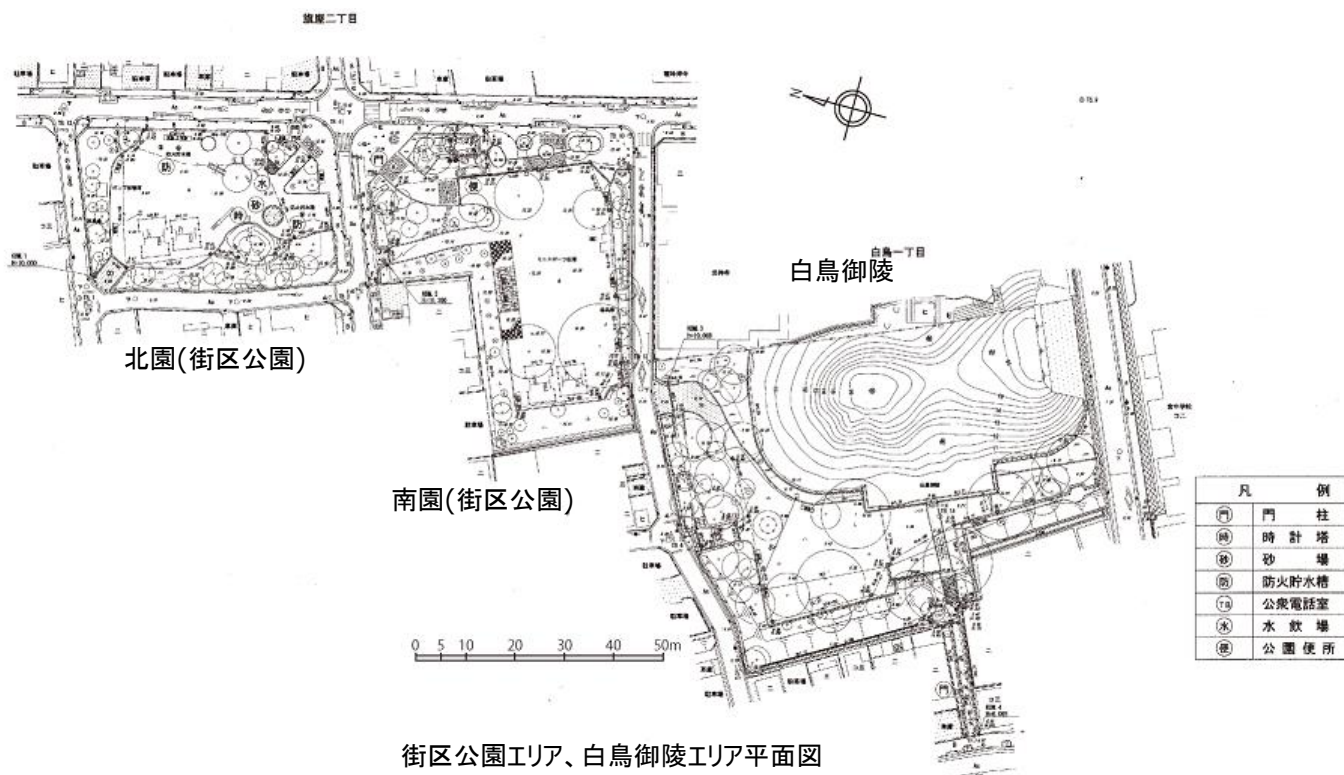
というコンセプトを持っている。チタンパイプの扱い、池底の意匠など、その果敢な実験性、ハイテクも駆使した多様な変化ある空間構成が評価されて、公園部門での受賞となった。

■街区公園エリア

白鳥公園の一部として堀川の東側に街区公園がある。街路を挟んで北園と南園に分かれている。北園は、ブランコ、すべり台、シーソー、砂場、築山等、遊具を中心とした公園である。南園は、ミニスポーツ広場を中心にブランコ、鉄棒等の遊具とパーゴラ・ベンチ等の休憩施設が設置されている。

■白鳥御陵エリア

白鳥古墳は、6世紀初頭に築造されたと考えられている前方後円墳で、法持寺のすぐ隣に位置する。かつては法持寺が管理していたが、明治9年（1876年）からは熱田神宮に、戦後は名古屋市に管理が移された。一般には「白鳥御陵」と呼ばれている。



(2) 利用時間および料金

【白鳥庭園】

開園時間：午前 9 時～午後 5 時（入園は午後 4 時 30 分まで）

休園日：毎週月曜日（休日にあたる時は直後の休日でない日）
毎月第 3 水曜日（休日にあたる時は第 4 水曜日）
年末年始（12/29～1/3）

利用料金

入園料	区分	1 人 1 回	団体 (30 人以上)	団体 (100 人以上)	定期観覧券 (1 年)
	大人	300 円	270 円	240 円	1,200 円
	高齢者	100 円	90 円	60 円	400 円

※中学生以下は無料。

※身体障害者手帳等の交付を受けている方は無料。

※高齢者とは市内在住 65 歳以上の方。

【清羽亭】

使用料	茶室名称	使用区分		
		昼間 (9:30～16:30)	午前 (9:30～12:30)	午後 (13:30～16:30)
	一の間	6,000 円	3,600 円	3,600 円
	二の間	6,000 円	3,600 円	3,600 円
	澄 蘆	4,000 円	2,400 円	2,400 円
	汲江軒	4,000 円	2,400 円	2,400 円
	立札席	6,000 円	3,600 円	3,600 円

【駐車場】

駐車場名	面積	収容台数	供用期間	供用時間	料金
白鳥庭園 駐車場	約 1,800 m ²	大型 1 台 普通 45 台 身障者 2 台	1/4～12/28 白鳥庭園の 休園日は 閉場	8:45～17:00	1 台 1 回 大型車 1,200 円 普通車 300 円 自二・原付 150 円
白鳥公園 駐車場	約 715 m ²	普通 29 台 身障者 1 台	全日	24 時間 入庫は 7:00～22:00	7 時～22 時 1 時間まで 300 円 以降 30 分 100 円 最大 500 円／回 22 時～7 時 30 分 100 円 白鳥庭園入園者は 300 円

(3) 景観

【公園内の優れた景観】

- ・ 熱田まつりの花火や桜の頃の花見など季節ごとに美しい景観がある。
- ・ 白鳥庭園の正門から入った正面にある「覗き」を通して、借景的に国際会議場が見え、このエリアを南から北まで見通せる面白いデザインとなっている。

【公園周辺の景観】

- ・ 公園の東には、熱田神宮、断夫山古墳（白鳥古墳）があり、堀川を南に下れば、宮の渡しや七里の渡しがあるなど、名古屋市において歴史的価値の高い景観地域になっている。
- ・ 公園南側および西側には住宅地が展開し、高層ビルも目立つ。
- ・ 公園東側は、堀川の堤防および水面があり、橋から見た堀川、熱田記念橋、親水空間としてのプロムナード（河川区域内施設）等の景観が美しい。

◇ 彫刻

作品名	作家名	設置年	設置場所
翔姿	石黒鏘二	H1	熱田記念橋西詰
歓喜	中村公之	H5. 11	北園

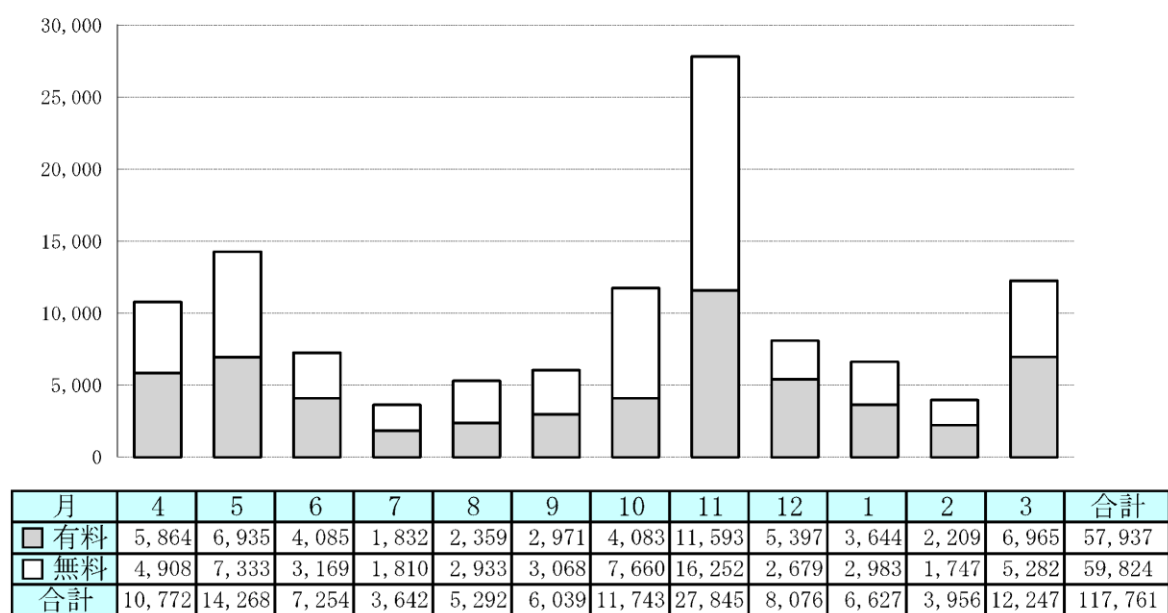
◇ 水景施設

種類	愛称	面積(㎡)	設置年月	備考
噴水流れ	汐入の庭	735	H3. 3	
流れ		9, 000	H1. 3	H3. 3 増設

1-6.利用状況

(1) 利用実績

【白鳥庭園】（平成 24 年度入場者数）



年間入園者 117,761 人 〈無料 59,824 人 有料 57,937 人〉

無料開園日の入場者数

9 月 17 日（月・祝）敬老の日市内在住 65 歳以上無料開放（110 人）

10 月 21 日（日）なごやまつり協賛無料開放（4,113 人）

11 月 24 日（土）名古屋の公園スタンプラリー協賛無料開放（8,812 人）

（最近の入場者数）

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24
人数	91,713	93,289	104,610	119,487	113,872	117,761

(2) 利用者の意見

公園に関する意見・要望は、イベント時における利用者へのアンケートやガイドボランティアによる利用者へのヒアリングで収集している。

■ 利用者へのヒアリング結果より

- ・ アクセスが悪い。(利用者は公共交通機関でのアクセスが多く、年齢層も高い人が多いため、メーグルのような巡回バスがあるとよい。)
- ・ 公園全体が見渡せるような公園ではないため、子どもを遊ばせるには目が届かないところがあり、安全面で不安がある。
- ・ 白鳥公園(南広場)は、人が少なく、寂しいイメージがある。
- ・ 犬の散歩時にリードと付けない人がある。
- ・ 花火やバーベキューのゴミが散乱している。

■ 平成 22 年度 第 5 回 ネット・モニターアンケート “これからの公園のあり方について(特に利用・活用面から)” によると、白鳥公園は、「名古屋市内の公園で一番好きな公園」の 10 位に選ばれている。選ばれた主な理由は次のとおりである。

- ・ のんびりとした気持ちになれる。気持ちが安らぐ。
- ・ 街中にあるにも関わらず、静かで心が和む。
- ・ 規模と空への抜け感が抜群。
- ・ 季節感がたどよい、犬の散歩に楽しい公園である。
- ・ 日本庭園は、趣がある。市民茶会を通して、季節の移り変わりを感じる。
- ・ とてもきれいに整備されている。
- ・ イベントも多く、指定管理者の管理になって活気が出たと思う。

■ ボランティアへのアンケート結果より

1) 白鳥公園の魅力について

- ・ 広々とした庭園。
- ・ 樹木が多い。
- ・ 白鳥伝説等の歴史性。

2) 望まれる公園像について

- ・ 今後、周囲も含めて景観が守られるようにしたい。
- ・ 庭園内で休憩できる場所を増やしたい。

(3)利用状況

【主な行事（白鳥庭園）】（H24 年度実績）

イベント名	開催時期	入園者数
春浪漫	5/3～5/6	6,063 人
秋露会	9/17～9/29	1,993 人
観楓会	11/23～11/25	15,318 人
ひめ盆梅	1/12～1/14	1,836 人
観桜会	3/30、31	3,349 人

平成 24 年度の主な取り組み

- ・ 敬老の日や新春イベントでは、大須演芸場で活躍する講談師や落語家による伝統芸能を上演した。
- ・ 白鳥大茶会（白鳥伝統文化発信プロジェクト）では、清羽亭、芝生広場、あずまや、梅林等の白鳥庭園内各所で茶席を設けて、茶道各流派、煎茶、中国茶、紅茶、コーヒー、香道等でもてなした。茶の湯の文化とともに育まれてきた名古屋の伝統文化を紹介した。

■周辺施設の利用状況など

【名古屋国際会議場】

- ・ 年間 100 万人の来館者がある。
- ・ 熱田まつりの花火の絶好の見物場所であるため、施設を開放している。
- ・ 早朝から公園にウォーキングや散歩で訪れる人が多い。太極拳やラジオ体操の利用も多く、雨天は国際会議場の軒下を利用している。

【熱田生涯学習センター】

- ・ 白鳥公園を活動のフィールドとして利用している。
- ・ 白鳥地区よりさらに広い範囲に目を向け、熱田の自然にスポットを当てた講座を設定している。
- ・ 史跡ガイドボランティアを養成する講座等の各種マイスター講座を行っている。
- ・ 地域に関連するコンテンツの提供と参加者の次の活動への展開の手助けを行っている。

【中部森林管理局名古屋事務所】

- ・ 白鳥公園で行われる区民まつりで、木製ストラップ作りとパネルの展示を行っている。

【名古屋学院大学】

- ・ 新入生が入った際に、地域について知るため、グループに分かれて周辺を歩くフィールドワークでの利用や清掃活動を行っている。
- ・ 通学で白鳥公園を通過する学生が多い。
- ・ キャンパスの延長として、大学生は公園を利用している。

(4)利用・運営上の課題

- ・ 利用者は公共交通機関でのアクセスが多く、年齢層も高い人が多いため、バスが適しており、メーグルのような巡回バスがあると良い。
- ・ 使用料や行為許可の手続きが煩雑であるため、イベントの希望があっても諦めてしまう場合がある。
- ・ 施設の老朽化が問題となっており、計画的に修繕を行う必要がある。（木製の施設が多い。）
- ・ 捨てネコや太夫掘で禁止されている釣りをする人がいる。
- ・ 入園料の支払いや割引に対して柔軟な対応ができるとよい（複数の施設のセット券の企画など）。
- ・ 国際会議場と白鳥庭園間の人の流れを誘導する仕掛けが必要である。
- ・ 公園に接しているプロムナードが潮の干満で水没するため、滑りやすい。

(5)協働

【名古屋国際会議場】

- ・ 国際会議場の利用者に対して、白鳥庭園のパンフレットを配布して案内している。
- ・ 全国から集まる催事では、国際会議場内に白鳥庭園の特設ブースを設けている。
- ・ レンタル自転車（無料）を準備し、地域との連携につなげている。
- ・ 名古屋学院大学が実施しているみつばちプロジェクト等に協力している。

【熱田生涯学習センター】

- ・ 講座の中で、白鳥庭園を利用する場合は、ガイドボランティアにガイドを依頼し、ガイドボランティアの活用を推進している。

【ボランティア】

- ・ 白鳥庭園語り部の会「白游会」が、白鳥庭園内で、朗読会等の活動を行っている。
- ・ 名古屋建設業協会と名古屋市の協定により2ヶ月に1回、協会が市内の公園の清掃を行っており、白鳥公園は年1回除草が行われている。

【その他の市民活動等】

- ・ 日比野商店街振興組合が、蜜源になる植物を植えたプランターを置くプロジェクトを行い、白鳥庭園も協力している。みつばちプロジェクトでは、白鳥地区で採取した蜂蜜を使った製品の販売や徳川園での蜂蜜プロジェクトとの連携イベントを行っている。

【企業との協働】

- ・ 飲食メーカーのCSRとしてイベント時にお茶のセミナーが実施されている。
- ・ ミツバチの蜜源として農薬散布を止めた結果、発生した蚊の問題に対応するため、製薬会社からモニターとして薬品の提供を受けている。

1-7.公園の基本的な性格・役割

(1) 特長の分析

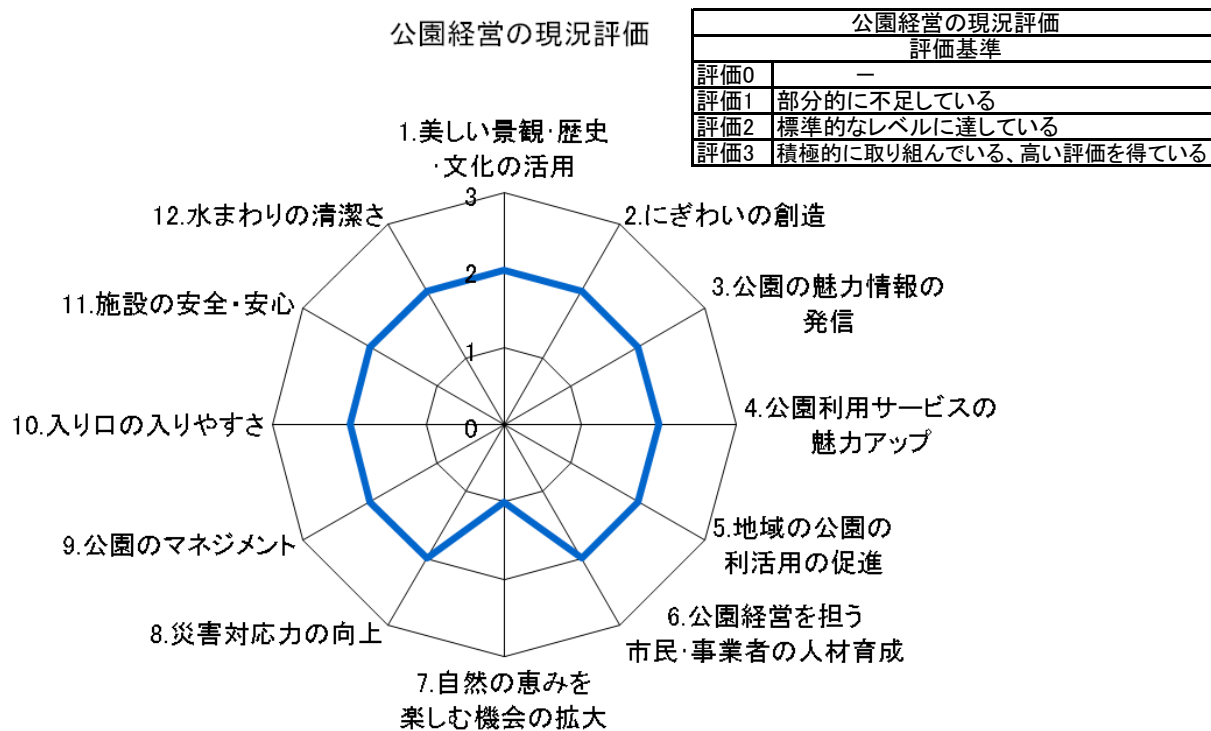
分析ポイント

歴史・文化	貯木場、太夫掘など地域の歴史・文化と深いつながりがある。 敷地は貯木場跡地である。
景観	整備の行き届いた白鳥庭園の優れた景観とサクラや花火のビュースポットになっている。 白鳥庭園は、池泉廻遊式庭園※で、中部地方の地形をモチーフに、源流から大海までの「水の物語」をテーマにしている。
にぎわい	南広場は、区民まつり等のイベントで利用されている。
地域の庭	太夫掘り周辺等の散策路が日常的に利用されている。
自然の恵み	堀川が隣接している。サクラや郷土の森等の豊かな緑。
遊具	南広場、街区公園に遊具がある。
スポーツ施設	街区公園にミニスポーツ広場がある。
災害対応力	広域防災拠点（緊急物資集配拠点）、広域避難場所に指定されている。
活動団体	周辺にある施設が、各種活動のフィールドとして白鳥公園を利用している。（国際会議場、大学、生涯学習センター等） ボランティアが積極的に活動している。
民間活力導入状況	自販機の設置

※池泉廻遊式庭園…江戸時代に発達した日本庭園の一様式。

池とその周囲を巡る園路を中心に作庭するもの。

(2)公園経営の現況評価



- ・ 白鳥庭園部分は指定管理区域。
- ・ 周辺にある施設が、各種活動のフィールドとして白鳥公園を利用している。

2.めざすべき姿と取り組みの方針

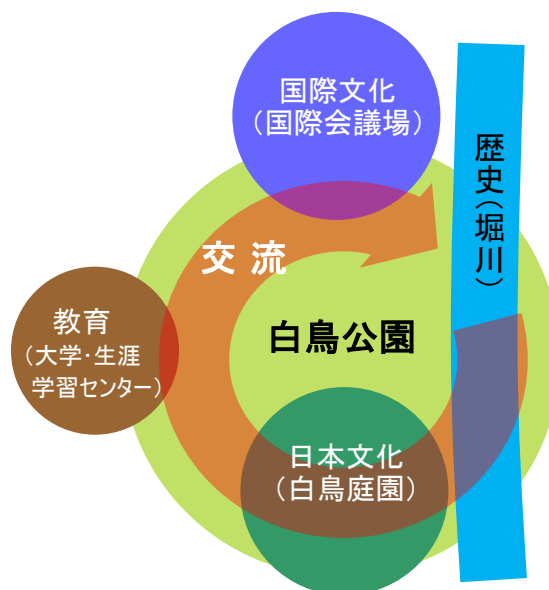
2-1.公園がめざすべき姿

(1)めざす公園像

地域に伝わる水の物語を軸に、歴史と文化の交流が生まれる公園

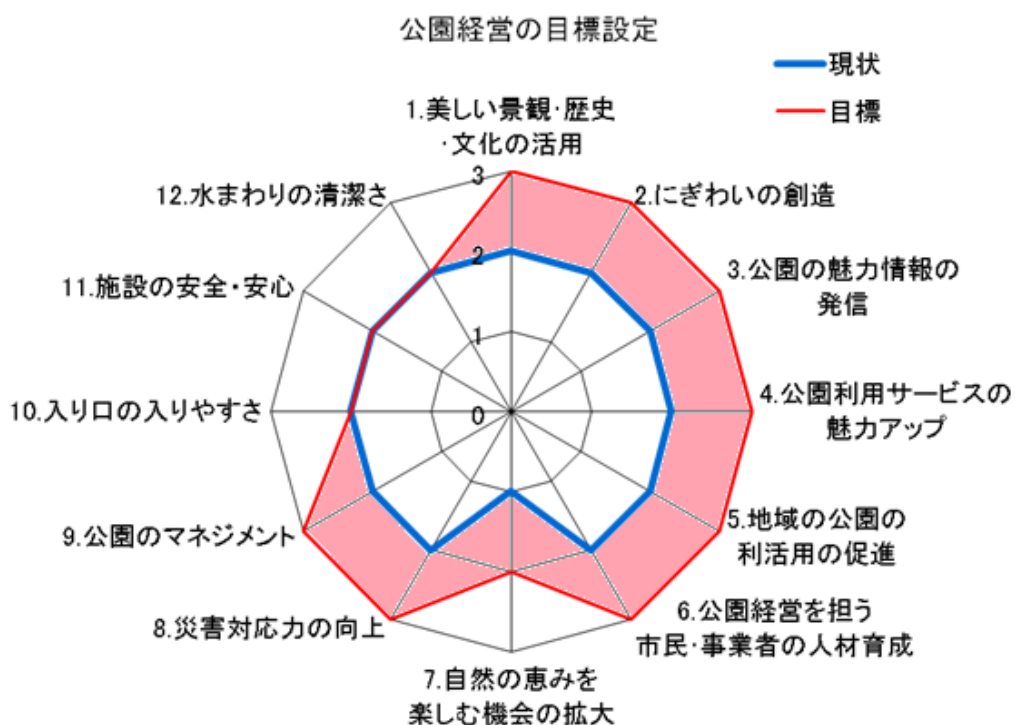
- ・ 歴史と文化の蓄積された土壌を持つ熱田において、歴史を生かした「文化の薫り高いまちづくり」の側面を担う公園。
- ・ 国際会議場が担っている交流の場という特性を活かし、来訪者の満足度が高い公園。

(2)白鳥公園のイメージ



2-2.取り組みの方針

(1)公園経営の目標設定

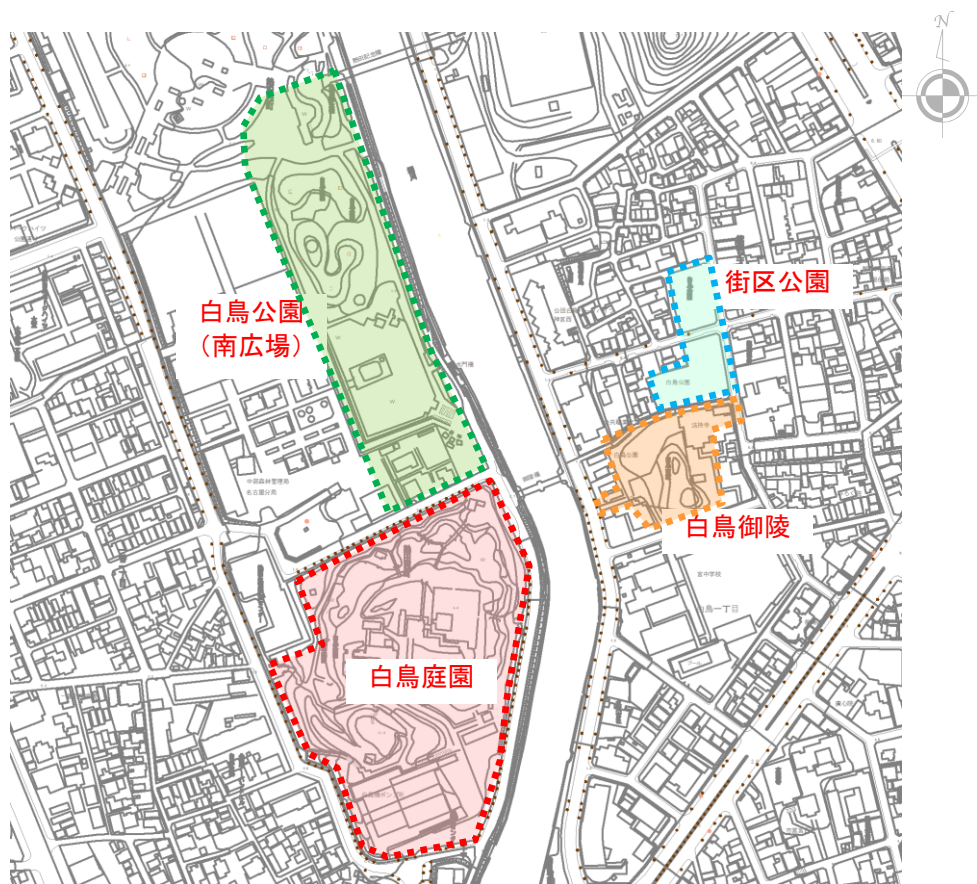


めざす公園像に取り組むための方針に沿って公園経営の目標を設定し、今後 10 年間に重点的に取り組む項目は、下表のとおりである。

めざす公園像のための取り組み項目 めざす公園像のための取り組み方針	景観形成		運営管理				連携協働			維持管理		
	1	10	2	3	7	9	4	5	6	8	11	12
歴史と文化の蓄積された土壌を持つ熱田において、歴史を生かした「文化の薫り高いまちづくり」の側面を担う公園。	○		○	○				○				
国際会議場が担っている交流の場という特性を活かし、来訪者の満足度が高い公園。			○				○					

また、指定管理者制度のメリットを活かして、公園経営的視点に立った公園の管理を行うとともに、利用者や近隣住民の声を大切にしながら、安全・安心や環境への取組み等にも考慮して、効果的・効率的な管理運営を行う。

(2)ゾーン別特性



ゾーン図

管理運営や改修整備等を重点的・効率的に実施していくために、園内の各ゾーンについて現況等も踏まえ機能・目的・自然的環境等により類型化し、ゾーンごとの方針を定め、各ゾーンの長を際立たせて効果的な予算の執行等を図るうえでの基本的な方針とする。

【白鳥公園（南広場）】

白鳥地区として、先行的にプロムナード等の整備が進められた堀川沿いで、名古屋国際会議場、名古屋学院大学、熱田生涯学習センター、中部森林管理局等、様々な施設に囲まれたオープンスペースである。にぎわいの場としてのポテンシャルは高いが、現状の利用は比較的小さいため、積極的に市民が活用できるエリアをめざす。

【白鳥庭園】

池泉回遊式の庭園は、中部地方の地形をモチーフに、築山を「御嶽山」、そこから流れる川を「木曽川」、川の水が注ぎ込む池を「伊勢湾」に見立て、源流から大海までの“水の物語”をテーマにした日本庭園である。有料施設として、質の高いサービスを提供するエリアをめざす。また、徳川園とともに名古屋市の所有する日本庭園として知名度を向上させる取り組みを行う。

【街区公園】

遊戯施設とミニスポーツ広場のある街区公園は、近隣の児童の遊び場として、安心、安全に利用できるエリアをめざす。

【白鳥御陵】

地域の歴史資産として、情報の発信と適切な維持管理を持続的に行っていくエリアをめざす。

(3)維持管理の方針

園地や植物の管理については、当初の植栽意図を踏まえ、各植物の特性に配慮したうえで、適正に持続・育成するような必要な管理を行う。

施設や設備は、利用者が快適かつ安全に利用できるよう、各種施設の位置、機能、特性を十分に把握したうえで、常に清潔に保ち、機能を正常に保持するため、各施設に応じた年間管理計画を立て、点検・管理を行う。

日本庭園の維持管理においては、作庭当時の表現を十分尊重し日本庭園の品格を落とさないように努める。また、創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを入園者に提供するとともに入園者の増加を図る。

周辺地域との連携、市民・企業等とのパートナーシップを推進し、参加型で効率的な維持管理を目指す。

(4)景観形成の方針

堀川のプロムナード、サクラやヒトツバタゴの並木、園内のオープンスペース、白鳥庭園の非日常的な空間など、白鳥公園および周辺の良い景観を維持し、活用していく。

(5)運営管理の方針

施設利用者の満足度を高め、多様なニーズに応えるため、施設利用者の声を聴取し、反映できるものは積極的に取り入れる。また、白鳥公園の活用を進めるため、周辺地域との連携、市

民・企業等とのパートナーシップを推進し、参加型の運営を目指す。また、公園内外の施設間の連絡を密にし、イベント等を協力して運営する。

【広報】

新たな広報ツールの開発、パブリシティの活用、事業者や学校等との連携を進め、積極的に最新情報を発信する。

白鳥庭園は、徳川園とともに庭園群としてアピールしていくことを検討する。

【講習会・展示会・イベント】

国際会議場、生涯学習センター、大学等周辺の学習施設との連携を図り、白鳥公園を軸とした地域の歴史、文化、産業等に関連した講習会、展示会、イベント等を実施する。

(6) 連携・協働の方針

一般公園エリアでは、市民団体や企業との連携を進め、地域に根ざした公園を目指した管理運営を行う。現在、白鳥公園で活動しているボランティア団体のほか、NPO、市民等との協働事業を実施する。

ボランティア活動の継続・充実を図り、公園をボランティアのメンバーや市民のコミュニティの場（地域のオアシス）として活用する。

(7) 改修・再整備の方針

公園の安全・魅力向上のために必要な場合は、改修を行う。

なお、本格的な数寄屋建築である清羽亭については美観を維持し、材料の傷みや不具合の防止に努めるとともに不具合を生じた場合は速やかに修繕を行う。

(8) 災害対応の方針

「名古屋市地域防災計画」「震災に強いまちづくり方針～名古屋市防災都市づくり計画～」に基づき、広域防災拠点、広域避難場所としての機能を確保し、向上させる。

火災、地震、風水害等の防災・災害対応マニュアルをあらかじめ作成し、発災時には、利用者の安全確保・避難誘導に努める。